

C-ENGINE 産学協働イノベーション人材育成シンポジウム2021

オープンイノベーションに向けた《新しいインターンシップ》のかたち

開 催 報 告

2021年10月28日(木) 14:30~17:00 オンライン開催

本協議会主催のシンポジウム「オープンイノベーションに向けた〈新しいインターンシップ〉のかたち ー来るべき変化への備え 人材育成の視点ー」には、企業関係者53名、大学関係者62名、官庁・団体から8名、総勢123名の皆さまにご参加登録をいただきました。本事業において実施する研究インターンシップは、教育・研究が融合した産学による大学院教育プログラムであり、博士後期課程学生の研究力向上・キャリアパス構築を支援するものであることを改めてご理解いただく機会となりました。

開会挨拶

(一社)産学協働イノベーション人材育成協議会
代表理事 平島 崇男 (京都大学理事・副学長)

シンポジウム参加者及びご来賓への謝辞に続き、本協議会の設立背景・意義をご説明いたしました。大学院教育やイノベーション創出に関わる有識者、政策立案者の皆様と知見を共有することを通じ、本協議会事業への更なるご理解とご協力をお願いするとともに、今後の大学における研究インターンシップへの関心の高まりや、文理融合型研究インターンシップへの展開についても言及いただきました。



ご来賓挨拶・ご講演

経済産業省産業技術環境局
審議官 田中 哲也

ポストコロナを見据えたDXやグリーン社会の実現など、産業構造の転換・好循環の実現に向けた変革のためにオープンイノベーションと社会課題解決をリードする人材育成が必要であり、本協議会で推進する研究インターンシップによせるご期待を述べられました。内閣府、文部科学省とともに一体となり、研究インターンシップをはじめとする実践的産学連携活動を進める本協議会とも連携・協力し、博士人材活躍に向けたキャリアパス拡大政策を推進されることをお話しいただきました。

文部科学省高等教育局専門教育課
企画官 中澤 恵太

本協議会が産学連携による教育活動をリードしてきたことをご評価いただいたと共に、イノベーションを生み出し、社会課題の解決をリードできる英知の担い手としての博士人材の活躍のため、第6期科学技術イノベーション基本計画に研究インターンシップの活用を盛り込まれたことに言及され、関係省庁、大学、経団連そして本協議会とより一層の連携をもって、ジョブ型も含む研究インターンシップ推進をはじめ、我が国の学生・大学の未来の可能性拡大にご尽力いただけることをお話しいただきました。

本協議会の取組みについて

(一社)産学協働イノベーション人材育成協議会 事業責任者 藤森 義弘
本協議会の概要と共に、各企業・大学による丁寧なマッチングにより成立件数が500件超となったこと、アカデミアでも企業の研究現場でも活用できるトランスファラブルスキルRISEの意識化・研鑽に、研究インターンシップが効果的であることを説明いたしました。今後も、研究・教育に軸足を置き、数理系テーマ設定支援をはじめ、ジョブ型や文理融合型を含めた研究インターンシップの更なる推進を宣言いたしました。

基調講演 「次世代の研究者育成戦略と大学・企業への期待」

総合科学技術・イノベーション会議常勤議員
上山 隆大

はじめに、日本においてイノベーションを志向する人材が育っておらず、さらには若者のキャリア不透明さから来る不安・自己研鑽への消極性がみられ、責任ある社会の一員としての意識が低いという深刻な状況をご指摘いただきました。教育・人材育成においてこれまで以上に積極的な政策立案を、エビデンスに基づいて推進するためにCSTI内にチームをつくり、そこで実施された大規模アンケート調査・分析結果の一部をご紹介します。特に人材育成に係る産業界のニーズの見える化に関する部分として、業務で必要な専門知識分野と、事業展開に必要な専門知識分野が乖離している現状、大学により異なる人材育成のパターンに応じたカリキュラムの必要性や、最終学歴、職種、正規・非正規と年収レベルから見える傾向をお示しいただきました。このようなデータを使って、博士号取得者に対する多様なキャリアパスを提供し、待遇改善につながるような政策を進めておられることや、国公私立大学全体を見渡したビジョンとして、研究大学がワールドクラスの研究拠点として先端的研究と共創の場を形成し、地域大学が地域創成のハブとして大学自体の成長を可能にするような総合支援パッケージの構想についてご説明いただきました。これらの方向性が反映された第6期基本計画に基づき、C-ENGINEをはじめ、今後も同様の志を持つ人々と議論しながら、誰から見ても納得できるような高度人材育成政策を共に推進していきたいという思いを述べられました。



特別講演 「DXと製造業のサービス化戦略」

神戸大学大学院経営学研究科長
南 千恵子

経営学・マーケティングの立場から、DXがビジネス、特に顧客との関係のあり方にどのような変化をもたらすかというお話をお聞かせいただきました。まず、デジタルツインという考え方・実践により、製造業において機械の故障予知やスマートファクトリー分野でサービス化が進行している現状と、サービス化の3つのパターン（製品からのサービスの分離、パフォーマンスベースサービス、ソリューション）、DXを支える技術（IoT、CC、PA）と必要な能力（データのハンドリング、データの利用許可、分析能力）について解説いただきました。続いて、製造業におけるDXが、開発や製造工程、バリューチェーン、企業間関係や顧客へのアプローチに与える影響と、DXによる製造業自体の高度化に言及され、自動車産業におけるCASEのように、業界を超えたサービスシフトが起きる可能性を示唆されました。こうした製造業におけるサービス化の進展がビジネスをどう変えていくかについての海外事例研究の成果や、ICTの進化と製造業のサービス化の関係について明らかにした、昨年C-ENGINEの研究インターンシップに参加された大学院博士後期課程学生との共同研究の結果もご紹介いただきました。最後に、DX環境下での製造業のあり方として、バリューチェーンの位置に適した戦略と、各社の自社リソースに応じた顧客価値の提供を目指すべきことをご指摘がありました。



受入企業取組み事例のご紹介

住友電気工業(株)

研究開発本部 研究企画業務部 原野 佳津子

事業内容のご説明をいただいたのち、製造業としても作りを基盤とした現場型インターンシップをこれまで実施されていたことをご説明いただきました。コロナ影響により対面実施が困難な中で、リモートでの試行をいただいている旨、対面とリモートそれぞれのメリット・デメリットをご説明いただきました。リモートでも実施可能なテーマ提案型で新たに募集・実施した中で、学生から素晴らしいご提案を得られたことや、対面・リモートの双方のメリットを活かすハイブリッド型についてもご紹介いただきました。

(株)リコー

プロフェッショナルサービス部 人事総務センター 石川 知司

研究インターンシップの実施体制やプロセスにおける課題と工夫について、具体的にご紹介をいただきました。特に時間がかかる、受け入れ決定後から開始までの事務手続き簡略化のための工夫や、各受入れ部門でのSherepointによる情報共有を徹底し、人事異動等があってもスムーズな実施ができていたとのことでした。実際にご経験された学生、企業担当者、学生の指導教員の声のご紹介や、オンラインの活用により、報告会が産学での研究交流機会としての意味合いをより強くしていることなどをご報告いただきました。

閉会挨拶

(一社)産学協働イノベーション人材育成協議会
監事 豊嶋 哲也 (日本ゼオン株式会社常務執行役員)

本シンポジウムを受け、ご登壇者並びにご来賓の方々への謝辞を述べさせていただきました。産学連携やイノベーションは聞きなれた言葉である一方、これを日々の業務の中に落とし込み、効果的に実践することの難しさを指摘いただき、研究開発からリクルートに至るまでの非常に有用な産学のプラットフォームとして、会員大学・企業関係者にはより一層ご活用頂きたい旨、また本協議会活動を一緒に盛り上げて頂ける企業様のご入会をお願いし、シンポジウムを終了いたしました。

一般社団法人 産学協働イノベーション人材育成協議会 (C-ENGINE)

〒606-8302 京都市左京区吉田牛ノ宮町4 日本イタリヤ会館305 TEL: 075-746-6872 MAIL: contact@c-engine.org URL http://www.c-engine.org